

## 船舶事故調査報告書

平成22年4月22日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲也  
 委員 根本 美奈

事故種類	火災
発生日時	平成21年8月30日 04時35分ごろ
発生場所	宮崎県延岡市安井町地先の島毛 <sup>しまげぼえ</sup> 灯標から真方位025° 1,000m付近 （概位 北緯32° 36.1′ 東経131° 47.0′）
事故調査の経過	平成21年8月31日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <sup>こうりょう</sup> 光漁丸、9.7トン MZ2-3243（漁船登録番号）、個人所有 13.51m×4.10m×1.48m、FRP ディーゼル機関1基、漁船法馬力数120、平成4年1月10日
乗組員等に関する情報	船長 男性 34歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成7年6月29日 免許証交付日 平成16年9月6日 （平成22年6月28日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、安井町の島毛 <sup>しまげ</sup> 付近海域で操業中、平成21年8月30日04時35分ごろ、機関室付近から出火した。 船長は、僚船の海水ホースを用いて放水するなどして消火を試みたものの、火勢が強まったため、海上保安庁に連絡したのち、乗組員とともに僚船へ避難した。 本船は、来援した巡視艇により消火活動が行われたが沈没し、のち引き揚げられて解体処分された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風速 4m/s、視界 良好 海象：うねり なし
その他の事項	船長は、後部甲板で揚網作業中、機関室の出入口及び換気ファンから白い煙が出ているのを認め、火災に気付いた。 火災発見時、主機は回転数毎分（rpm）850で甲板機器用油圧ポンプのみを駆動し、220V用発電機の原動機（以下「補機」という。）は1,600rpmで照明の発電用として、運転されていた。 機関室は、右舷船首側に設置された補機付近が激しく焼損していた。 補機駆動の24V用発電機に接続された電気配線に溶融した金属塊が認められたが、同金属塊は、溶融範囲が広く、丸みが少なく、大きなボイド

	<p>(小さな泡のような空隙)が生じていた。</p> <p>本船は、平成19年1月に中古で購入されたもので、購入以来、電気系統の点検を行っていなかった。</p> <p>船長は、出港前に機関室内の点検を行っていたが、燃料油及び潤滑油の漏えいや臭いを認めておらず、出港後は同室内の点検を行っていなかった。</p> <p>火災発生時、主機及び補機の警報装置は、正常な状態にあったが、作動していなかった。</p> <p>火災警報装置は、設置が義務付けられていないので、設置されていなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、島毛簗付近海域で操業中、機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>本船は、補機駆動の24V用発電機に接続された電気配線に溶融塊が認められたが、溶解塊は、その形状から、火災発生後、二次的に短絡したことにより発生した可能性があるため、出火原因を明らかにすることができなかった。</p> <p>電気系統の点検は、定期的に行っておくべきである。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、島毛簗付近海域で操業中、機関室から出火したため、発生したものと考えられる。</p>	